
ヴィヴィオの地球日記

yuiyui

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴィヴィオの地球日記

【Nコード】

N1737K

【作者名】

yuiyui

【あらすじ】

魔法少女リリカルなのはに登場する 高町なのはの娘 高町ヴィヴィオの地球日記。

第1話 地球へ行ってきました！

はじめまして！ 高町ヴィヴィオです。

「なのはママ」と「フェイトママ」の子供さんです。

と言っても、養子に入っただけなのは「なのはママ」のほうですね。

なのはママは機動六課解散の後、航空戦技教導隊に戻って戦技教官として武装隊の皆さんを鍛えています。

フェイトママは、ティアナさんとシャーリーさんの2人を部下にして、執務官という仕事をしています。

私 ヴィヴィオは、学校へ行っていて勉強中です。

その学校も今はロングウィーク中で、学校は長期休みになっています。

なのはママのいた地球で言えば「夏休み」に相当するそうです。

ヴィヴィオはこれから なのはママと一緒に、なのはママの実家へ行ってきます。

士郎さん（おじいちゃん）、桃子さん（おばあちゃん）、美由希さん（おばさん）と一緒に住んでいるそうです。

あと、恭也さん（おじさん）、忍さん（おばさん）、雫ちゃん（イトコ）が、近くにある月村邸ってところに住んでいるんだって。

イトコの雫ちゃんは 7歳なんだって、私より少し年上なんだね、優しくしてくれるかな。 いっぱい遊んでくれるかな。 楽しみでいっぱいです。

地球での出来事を どんどんアップしていきたいと思うので、よろしく願います。

あっ！ なのはママが呼んでる。

急いで なのはママのところ行かなくっちゃ・・・

それでは 皆さん、地球へ行ってきます。

第1話 地球へ行ってきま〜す! (後書き)

2008年9月に あるHPに投稿していた作品です。

第2話 海鳴臨海公園

「わぁー きれいだね なのはママ！」

転送先は 海鳴臨海公園 なのはママとフェイトママ そして
ーノパパの大事な思い出の場所……

「ほんとだねー 芝生には緑がいっぱい 海からの風も涼しくって
いい気持ちだねー ヴィヴィオ」

「うんっ！」

「ねえ なのはママ？」

「どうしたの ヴィヴィオ？」

「この公園 機動六課のあったところに似ているね」

「うん それはねヴィヴィオ はやてちゃんが部隊を置くところは
『自然と海が近くにあるところでないとかかんでー！』って、あ
の三提督をバツクに 本局の施設部と管財部に圧力をかけていたん
だよ」

「そうなんだぁー でも 空気がきれいなって いいよねー」

「ヴィヴィオ 空気がきれいなとこってねー 健康にもいいことな
んだよー」

「あ あそこでアイスクリーム売っているね ヴィヴィオ アイス
食べに行こうよ」

「うん ヴィヴィオ アイス食べたい」

「なのはママゝ 競争しよっ！」

「いくよゝ ヨーイ ドン！」

「あ 待つてよゝ ヴィヴィオゝ 急に走ると危ないよゝ」

「だいじょうぶだよゝ なのはママって…… イタッ！」

「うつ うう……… ころんじゃったゝ」

「ヴィヴィオ大丈夫？」

「急に走ると危ないよって なのはママ話しているでしょ」

「うん ごめんなさい なのはママゝ」

「もうヴィヴィオったらゝ」

「よいしよつと……」

「アイスのところまで 抱っこしてあげるから 泣くのをやめるのよ」

「うん……」

「じゃあ 行こうか ヴィヴィオ！」

「うんっ！」

えへへ……

久しぶりに なのはママに抱っこされちゃった……

なのはママの抱っこって気持ちいいんだよ

あたたかくて やわらかいし つい眠っちゃいそうになるんだよ

えっ！

わざと転んだのかって？

そっ そんなことないよ ヴィヴィオは わざと転んでなんかいな

いよ

ほっ ほんとだってば〜

第3話 フラワーと地球産アイスクリーム

「あゝ 美味しかった」

アイスクリームを食べ終わって、なのはママとユーノパパの一番最初に出会ったところを通って、お昼近くになったので 高町家のお店 翠屋に向かって歩いていきます

「ヴィヴィオゝ なのはママとユーノパパの出会いの場所はどうだったかなゝ？」

「うゝんとね 木がいっぱいで 静かなところで 涼しかったなゝって思った」

「でもね 想像していたのとは ちょっと違っていたの」

「桜や 梅のように いっぱいお花が咲いているところを 想像していたんだゝ」

「ねえ なのはママ？」

「地球でいう 春という季節になったら この木もお花がいっぱいになるの？」

「うん ここもね ミッドチルダの木のように いっぱいお花が咲くんだよゝ」

「最初の出会いのときは 季節が違っていて お花は咲いていなかったけど」

「ここの学校を卒業したときにね ユーノパパとデートしたの」

「その時にね 思い出の場所に行こうか って、ユーノパパが話してくれて」

「一緒に歩いたときは いゝっぱいお花が咲いていて きれいだったよ」

「いいな　なのはママ」

「きれいなお花がいっぱい咲いているところを　歩いていくことができて……」

「ん　じゃあ　春になったら　またあの場所に行こうか？」

「ユーノパパと一緒にね」

「うんっ！」

あとから　わかったんだけど、約束していた春の季節に　3人では
行けなかったの

そのわけはね……

このあとの日記のどこかで　お知らせします……

第3話 フラワーと地球産アイスクリーム（後書き）

アイスクリーム食べなくなってきました、冬？なのに・・・

第4話 翠屋と、なのはママのお姉ちゃん

「ヴィヴィオ〜 あそこが翠屋だよ」

「あのお店が翠屋なの？」

「お店にい〜っぱいお客さんがいるね」

「お昼ごはん 食べられるのかな〜 ヴィヴィオお腹すいちゃったあ〜」

「大丈夫 大丈夫」

「ヴィヴィオと私のために 予約席っていう 席を用意してくれるって お姉ちゃんが言っていたからね〜」

「ほんとっ!？」

「うん 本当だよ」

「わあ〜い!」

トテテテテテ・・・

「あ ヴィヴィオ〜 走ると危ないってば〜 って、遅かった……」

ゴンッ!

「イタタタタ・・・」

「うう…… ミッドみたいに自動ドアじゃないんだ このドア〜」

「ねえ あなた すごい音をだしていたけど 大丈夫？」

え？

だれ？

あ……

ユーノパパみたいに メガネをかけたお姉さんがいる

「ふう やつと追いついたよ ヴィヴィオ」

「急に 走らないでね 心配ばかりかけるんだから」

「うん」

「なのは おかえり」

「ただいま お姉ちゃん」

お姉ちゃん？ なのはママのお姉ちゃんのかな

「今回は 帰ってくるまで長かったね」

「ごめんね お姉ちゃん」

「機動六課が解散した後 ちょっとゴタゴタしていたんだ」

「でね 休みが消化されていないからって しばらくの間休むよう
命令がきちゃったんだ」

「で ちょうどヴィヴィオも学校が長期間休みに入ったんで 一緒
に来たの」

もしかして 忘れられているの？

「ヴィヴィオ？」

「ああ この娘の名前は ヴィヴィオって言うんだ」

「よろしくね ヴィヴィオ！」

「あつ はい 高町ヴィヴィオです よろしくお願いします!」

「え?」

「高町ヴィヴィオ……」

「つて…… なのは けっ 結婚したの? あっちの世界で」

「やだなゝ お姉ちゃん なのはからの手紙読んでいないの?」

「なのはからの手紙?」

「ううん 全部読んでいるよ」

「でもね 私宛てには ヴィヴィオのこと書かれていなかったよ」

うう…… お腹減ったよゝ なのはママゝ

「あっ……」

「いっけなゝい お母さんの手紙には書いたけど お姉ちゃんに伝わって書かなかったんだっけ……」

「ごめんね あとで詳しく話すから」

「そっか わかったよ なのは」

「ヴィヴィオも お腹減っているみたいだね」

「さあゝ 中に入って ヴィヴィオゝ」

「右側にある角の窓側の席だからねゝ」

「はゝい!」

やっ やつと食べられるよゝ

第4話 翠屋と、なのはママのお姉ちゃん（後書き）

翠屋デビューです。

第5話 リインフォース?さんも翠屋の常連さん

うわぁー 制服姿のおねえちゃんたちが たくさんいるよー
でも おにいちゃんたちって ぜんぜんいないんだね。

「なのはママ あの席でいいのかな?」

「そうだねー さあ早く座ろうね」

「うん!」

あれ? あそこにいるのは ヴィヴィオですね・・・ なのはさん
もいますー

「なのはさん ヴィヴィオー こんにちはですー」

ん?

「あっ リインさんだー こんにちはー」

「リイン こんにちはー」

「はいですー」

「なのはさんたち 里帰りですか?」

「うん あの時以来 全然実家に帰っていなかったからねー」

「ヴィヴィオを みんなに紹介したいし、なのはママたちはここで
育ったんだよーってね」

「そうですかー それはいいことですー ヴィヴィオ 私もここで
育ったんですよー」

「へー リインさんも ここの世界出身なんだ」

「はいです」

「あー 立ちっぱなしにしちゃってごめんね リイン」

「もし良かったら 一緒にお昼を食べない？ ヴィヴィオも喜ぶし」

「あ ありがとうございますですー ご一緒させてもらいます」

「やったー リインさんと一緒に食べれる」

えへへ・・・ なかなかリインさんとお食事できないもんねー

なにを食べようかなー この世界のはおいしいのかなー

・・・

そういえば リインさんは今 大きくなっているけど、小さくなったらお腹の中身はどうなるんだろう・・・

あとで なのはママに教えてもらおうと・・・

第6話　なのはママの幼馴染さんがやってきた

しばらくすると、なのはママと同じくらいの年の女の人が、お店に入ってきました。

「うーん　久しぶりに来たけど、翠屋は落ち着いていいわね」

「うん　そうだねアリサちゃん」

「えっと・・・　なのはと待ち合わせのはずなんだけどお・・・って!？」

「ちょ　ちょっとアリサちゃん、いきなり大声出さないでよ」

「あっ　あれ　あれ　なのはに子供が二人・・・って、あ　一人はリインかもう一人は？」

「ほんとだ　リインちゃんもいるのね、あとの女の子はなんだろうね」

「いくよ　すずか」

「うん！」

あの女の人、こっちを見て騒いでいる。

うー　なんか目をつけられたみたい　こわいよ

「な　なのはママ　あそこの変な女の人が　こっちをみて騒いでいるの　こわい…」

なのはママは、「えっ！」と言いながら振り向いたとたん、笑顔で答えてくれた。

「あの人たちはね　なのはママの幼馴染で、アリサちゃんとすずかちゃんと言うんだよ」

ふーん、とりあえず危険はないんだよね？

なのはママの幼馴染…

なのはママと同じ年か、その近くの年…

学校では、クラスメイトの両親は　おじさんか、おばさんと呼んで

いたっけ。

「なのは ひさしぶり」

「なのはちゃん おひさしぶり」

「うん アリサちゃん すずかちゃん ひさしぶり」

ふだんの なのはママには見られないのを見てしまった。
うれしそうっていうか、なんか楽しそうです。

あっ ヴィヴィオのほうを見ている、食べられちゃう？
んぐっ…

紫色っぽい髪の女の人に、抱きつかれてしまいました。

く くるしいです… なのはママ たっ たすけて

「きゃー かわいい」

すりすり なでなで ちょっとどかさわっているの…

なのはママ 思い出話に夢中になってないで たすけてよ…

あれから 何十分か経って、やっと解放されました。

何回か イキました、けっこうテクニシャンのようです。

ヴィヴィオが正気にもどったところで、なのはママから女の人の紹介があつて、ヴィヴィオのことも紹介されたの。

「高町ヴィヴィオです アリサお… アリサさん すずかさん
よろしくおねがいします」

こっ こわ… なのはママの幼馴染だけあつて、おばさんと言いか
けた瞬間に 殺気が感じました…

あのあと なのはママのお父さん ヴィヴィオから見れば おじい
さんに、すずかさん 同じく 抱きつかれました。

なのはママは すずかさんのときとは違い 一瞬で結界を張りSL
Bを3発連続打ちで おじいさんを打ち抜きました
だけど 何にもなかったように無傷で、ヴィヴィオのほうに再び近
づいてきました。

「ちよっと お父さん お話ししよっか…」

なのはママ　こわいです…

ユーノパパを、なのはママが一喝して強制召喚させて、3人でどこかへお出かけしました。

ときどき　地面がゆれています。

じかんが　ながいな…

あ　ヴィヴィオは今　となりにいたリインさんに、保護されています。

なぜかって？

保護されてないと　アリサさんやすずかさんに　おそわれてしまうからです。

うゝ　はやくもどってこないかな…　なのはママゝ

第7話　なのはママのママは、桃子さん

なのはママ　やっともどってきました。

ユーノパパは、ちょっと疲れたみたいで、フェレットモードになっています。

ユーノパパのフェレットモード久しぶりです。

おうちにいても、なかなかやってくれません。

ヴィヴィオが、手づかみで遊んじやって、よけいに疲れちゃうそうです。

でも結局、上目使いで「ユーノパパお願い〜」って、ジッとみると「うっ」と言って、みつめられてしまいます。

トドメに、「ヴィヴィオのお願い　きいてくれないんだ〜」って涙目すると、フェレットモードになってくれます。

手づかみできて、いろいろ遊べるユーノパパは　おもしろいです。

ヴィヴィオは今　桃子さんに後ろから抱きつかれたまま捕獲されます。

なのはママから送った写真を見て、はやく　あいたかったそうです。雫ちゃんも、はやくこないかな〜　って楽しみにしていて、今はおじさんたちと一緒にかんげいかいの準備を　なのはママの実家で準備しているそうです。

あっ　美由希さんが　なんか　小さくなってまね。

あとで　リンさんにきいたら、桃子さんがヴィヴィオの頭を　なでているあいだじゅう、美由希さんをニコニコしながら見ていたのを、美由希さんが　はやく子供をつくれっていうプレッシャーをかけていたのではないか　っていうことでした。

ふ〜ん　で　プレッシャー　って、なんなの？

その　リンさんは、桃子さんには敵わないそうです。

りゆうは、あの　なのはママのお母さんだからだそうです。

なんで、「あの」がつくのかな

こんど、なのはママにきいてみよっと…

数日後、はやてさんとユニゾンしたリインさんは、機動六課跡地で

炭になっていました・・・

第8話 雫お姉ちゃんといっしょ

なのはママの 実家というところに やっと着きました。

2かいだてで、道場？がある ひろーい おうちです。

1かいのフロアーは けっこうおっきいので、パーティーとかできそうです。

こんやは 「高町家へようこそ！ ヴィヴィオちゃん」ということで、かんげいかい っていうものをしてもらいました。

あっ 参加者もふえたんですよ、恭也おじさん、忍おば・・・さん、そしてイトコの雫ちゃんです。

雫ちゃんはヴィヴィオよりも1歳年上で、やさしいお姉ちゃんでした。

えへへへー ヴィヴィオにもお姉ちゃんができちゃった！

雫ちゃんも かわいいー って言ってくれて、うれしかったです。

あまりにも うれしかったので、ユーノパパから教わったテクニク？ をつかって、雫ちゃんをジッと上目遣いで見て・・・「雫お姉ちゃん もっとおはなしたいです、ヴィヴィオといっしょに寝ませんか？」って おねがいしていました。

すると雫お姉ちゃんは　お顔を赤くして　気を失ってしまいました。
たおれて　けがをしてしまうのも困るので、恭也おじさんに　おは
なしして、雫お姉ちゃんを2かいのお部屋に休ませることにしまし
た。

恭也おじさんは、そのまま忍さんにお話するために戻って、ヴィ
ヴィオは　今　雫お姉ちゃんの看病をしようと近くのイスに座った
ら、雫お姉ちゃんは目をさましたので、少しお話をしました。

しばらくして、ヴィヴィオは眠くなり　ウトウトしはじめました、
すると雫お姉ちゃんが「ヴィヴィオ　おいで」って言うてくれたの
で、ヴィヴィオは　ベットに入り、雫お姉ちゃんと向き合うように
したところで、寝ちゃいました。

「ヴィヴィオ　おやすみ」って、頭を撫でながら　雫お姉ちゃん
もいっしょに　そのまま寝ました・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1737k/>

ヴィヴィオの地球日記

2011年1月28日15時53分発行